

## アルコール性肝炎

男性 四十二歳 デザイナー

主訴 食欲無し、寝つきが悪い、寝汗

現病歴 二年前、アルコール過飲で、GOT、GPT が五〇〇位になる。アルコール性肝炎といわれる。近頃、微熱が続き、胸やけ、食後お腹が張る。一時的に下痢、顔面紅よう、汗が出やすい、眼精疲労。朝食はとってないとのこと。

所見 沈弦数、右行間 (+)、右悸肋部硬化 (胸脇苦満)

治療 扁桃処置、自律神経調整処置、胃の気三点、肝実処置。

経過 二日後、再来院。自覚症状大分楽になる。扁桃、胃経、自律神経。復溜、兪府に皮内鍼固定。

三回目 (1 週間目) 大分良くなった。右悸肋部大分軟かい。同前処置。

五回目 (二十日目) 特に自覚症状なし。扁桃、胃経。

七回目 (四十日目) 体調ずっとよい。行間 (-) 自覚症、腹証や火穴の圧痛はとれているが、弦数は依然ある。その後、現在まで月二回位のペースで来院。当初の自覚症は消退。近頃、腰が重いや風邪の治療。その都度、脈を診るが、沈弦数は大きな変化はなし。

考察 彼は内向的な性格であり、あまり喋らない。きいたことにポツポツと答えるぐらい。デザイナーという仕事柄、夜遅くまでパソコンの画面で仕事をしている。緻密な仕事の上に、奥さんともあまりいろいろ喋ったりしない。そして、あらゆるストレスを酒でまぎらわせる。彼の沈弦数は、彼自身の根深いストレスが彼の骨髄まで染み込んでいるのではないかと。以前、強迫神経症の症例で、その患者の脈状はあまり変わらなかったといたが、彼の場合も仕事のストレスの累積で神経症的な性格を形作り、それで沈弦数があまり変化しなかったのではないかと考えられます。

最近、彼の脈をみていると、弦がゆるんで、脈が前より広がってきている。奥さんにそれとなく様子を聞くと、近頃よく文句をいうようになった、嫌なことは嫌と言うんですよ、と。鍼が彼の性格を変えたのかもしれない。